

最新情報

ユネスコ世界ジオパークの再審査が行われました ②

7/24～27に行われたユネスコ世界ジオパーク再認定審査では、審査員2名が、有珠山周辺の火山遺構を始め、数百万年前に活動した海底火山の痕跡と、この地域で育まれたアイヌ文化、洞爺湖西岸の火砕流台地、収穫される野菜や果物などの恵みを通し、この地域の「大地の物語」について視察しました。

最終日の講評では、洞爺湖有珠山地域の取り組みについて高い評価をいただきました。



1日目のテーマは「火山の見どころと減災文化」。北アイルランドには約6600万年前の火山の痕跡しかないので、活火山の近くで人が暮らしていることにとても関心がある、とコースティン先生。昭和山その他、災害遺構や有珠山の外輪山を周りました。

2日目は「歴史と先住民族の文化」。カムイチャシや礼文華海岸では、数百万年前の火山活動と、大地の特徴を活かして暮らしてきたアイヌ民族の文化について知る機会になりました。お天気にも恵まれ、たくさんの見どころを回ることができました！



～ 審査を終えて ～

7月27日「審査員講評」より一部抜粋



Zhang Jianping ザン・ジャンピン先生（中国）

素晴らしい地質的見どころのあるこのジオパークが、4つの市町と北海道、住民の皆さんからの強い支援で成り立っていることを実感しました。世界ジオパークとして、今後さらに他の世界ジオパークとも交流を深めて欲しいと思います。



Kirstin Lemon カースティン・レモン先生（北アイルランド）

『変動する大地との共生』の長い歴史をもち、各案内施設でも内容が充実していました。特に減災・人材育成面では素晴らしい実例です。3日間、私達の調査に協力していただいた地元の皆様に、お礼を申し上げます。

今回の調査結果は、9月に行われるユネスコ再認定審議会にて審議され、来年1月頃までに最終的な審査結果として通知される予定です。